

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																
地質調査編 〔2〕 地質調査 標準歩掛等	調地標準 - 14	7-2 測定 7-2-1 測定(物理検層) 施工単価コード <u>DXB48010</u> ~ <u>DXB48080</u> (1式(100m)当り)	7-2 測定 7-2-1 測定(物理検層) 施工単価コード <u>DXB49010</u> ~ <u>DXB49080</u> (1式(100m)当り)	施工単価 コードの 訂正 右から4桁目 旧8→新9																																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">区分</th> <th rowspan="3">名 称</th> <th rowspan="3">単 位</th> <th colspan="2">速度(P)検層 ウェルシュテイク*</th> <th rowspan="3">音波(P) 1m間隔(連続)</th> <th colspan="2">P S 検 層</th> <th rowspan="3">摘 要</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">1m間隔</th> <th rowspan="2">2m間隔</th> <th colspan="2">ダウソール</th> </tr> <tr> <th>1m間隔</th> <th>2m間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	名 称	単 位	速度(P)検層 ウェルシュテイク*		音波(P) 1m間隔(連続)	P S 検 層		摘 要	1m間隔	2m間隔	ダウソール		1m間隔	2m間隔										<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">区分</th> <th rowspan="3">名 称</th> <th rowspan="3">単 位</th> <th colspan="2">速度(P)検層 ウェルシュテイク*</th> <th rowspan="3">音波(P) 1m間隔(連続)</th> <th colspan="2">P S 検 層</th> <th rowspan="3">摘 要</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">1m間隔</th> <th rowspan="2">2m間隔</th> <th colspan="2">ダウソール</th> </tr> <tr> <th>1m間隔</th> <th>2m間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	名 称	単 位	速度(P)検層 ウェルシュテイク*		音波(P) 1m間隔(連続)	P S 検 層		摘 要	1m間隔	2m間隔	ダウソール		1m間隔	2m間隔										
区分	名 称	単 位				速度(P)検層 ウェルシュテイク*			音波(P) 1m間隔(連続)	P S 検 層				摘 要																																						
						1m間隔	2m間隔			ダウソール																																										
			1m間隔	2m間隔																																																
区分	名 称	単 位	速度(P)検層 ウェルシュテイク*		音波(P) 1m間隔(連続)	P S 検 層		摘 要																																												
			1m間隔	2m間隔		ダウソール																																														
						1m間隔	2m間隔																																													
地質調査編 〔2〕 地質調査 標準歩掛等	調地標準 - 15	7-3 データ整理・計算 7-3-1 データ整理・計算(物理検層) 施工単価コード <u>DXB48210</u> ~ <u>DXB48280</u> (1式(100m)当り)	7-3 データ整理・計算 7-3-1 データ整理・計算(物理検層) 施工単価コード <u>DXB49210</u> ~ <u>DXB49280</u> (1式(100m)当り)	同上																																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">区分</th> <th rowspan="3">名 称</th> <th rowspan="3">単 位</th> <th colspan="2">速度(P)検層 ウェルシュテイク*</th> <th rowspan="3">音波(P) 1m間隔(連続)</th> <th colspan="2">P S 検 層</th> <th rowspan="3">摘 要</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">1m間隔</th> <th rowspan="2">2m間隔</th> <th colspan="2">ダウソール</th> </tr> <tr> <th>1m間隔</th> <th>2m間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	名 称	単 位	速度(P)検層 ウェルシュテイク*		音波(P) 1m間隔(連続)	P S 検 層		摘 要	1m間隔	2m間隔	ダウソール		1m間隔	2m間隔										<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">区分</th> <th rowspan="3">名 称</th> <th rowspan="3">単 位</th> <th colspan="2">速度(P)検層 ウェルシュテイク*</th> <th rowspan="3">音波(P) 1m間隔(連続)</th> <th colspan="2">P S 検 層</th> <th rowspan="3">摘 要</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">1m間隔</th> <th rowspan="2">2m間隔</th> <th colspan="2">ダウソール</th> </tr> <tr> <th>1m間隔</th> <th>2m間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	名 称	単 位	速度(P)検層 ウェルシュテイク*		音波(P) 1m間隔(連続)	P S 検 層		摘 要	1m間隔	2m間隔	ダウソール		1m間隔	2m間隔										
区分	名 称	単 位				速度(P)検層 ウェルシュテイク*			音波(P) 1m間隔(連続)	P S 検 層				摘 要																																						
						1m間隔	2m間隔			ダウソール																																										
			1m間隔	2m間隔																																																
区分	名 称	単 位	速度(P)検層 ウェルシュテイク*		音波(P) 1m間隔(連続)	P S 検 層		摘 要																																												
			1m間隔	2m間隔		ダウソール																																														
						1m間隔	2m間隔																																													
地質調査編 〔2〕 地質調査 標準歩掛等	調地標準 - 16	7-4 解析 7-4-1 解析(物理検層) 施工単価コード <u>DXB48410</u> ~ <u>DXB48440</u> (1式(100m)当り)	7-4 解析 7-4-1 解析(物理検層) 施工単価コード <u>DXB49410</u> ~ <u>DXB49440</u> (1式(100m)当り)	同上																																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">区分</th> <th rowspan="3">名 称</th> <th rowspan="3">単 位</th> <th colspan="2">速度(P)検層</th> <th rowspan="3">音波 (P) 1m間隔</th> <th colspan="2">P・S 検 層</th> <th rowspan="3">摘 要</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">1m間隔</th> <th rowspan="2">2m間隔</th> <th colspan="2">ダウソール</th> </tr> <tr> <th>1m間隔</th> <th>2m間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	名 称	単 位	速度(P)検層		音波 (P) 1m間隔	P・S 検 層		摘 要	1m間隔	2m間隔	ダウソール		1m間隔	2m間隔										<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">区分</th> <th rowspan="3">名 称</th> <th rowspan="3">単 位</th> <th colspan="2">速度(P)検層</th> <th rowspan="3">音波 (P) 1m間隔</th> <th colspan="2">P・S 検 層</th> <th rowspan="3">摘 要</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">1m間隔</th> <th rowspan="2">2m間隔</th> <th colspan="2">ダウソール</th> </tr> <tr> <th>1m間隔</th> <th>2m間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	名 称	単 位	速度(P)検層		音波 (P) 1m間隔	P・S 検 層		摘 要	1m間隔	2m間隔	ダウソール		1m間隔	2m間隔										
区分	名 称	単 位				速度(P)検層			音波 (P) 1m間隔	P・S 検 層				摘 要																																						
						1m間隔	2m間隔			ダウソール																																										
			1m間隔	2m間隔																																																
区分	名 称	単 位	速度(P)検層		音波 (P) 1m間隔	P・S 検 層		摘 要																																												
			1m間隔	2m間隔		ダウソール																																														
						1m間隔	2m間隔																																													

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																																																
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 2. 道路設計 標準歩掛	設標準 - 23	<p>概算工事費算出の歩掛は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">施工単価コード</td> <td colspan="6">DXC14001</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(予備設計あり)</td> <td colspan="6">(1業務当り)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">区分</td> <td>職 種</td> <td colspan="6">直 接 人 件 費</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主任 技術者</td> <td>技師長</td> <td>主任 技師</td> <td>技師 (A)</td> <td>技師 (B)</td> <td>技師 (C)</td> <td>技術員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>概 算 工 事 費</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、<u>実施時点での見積徴取作業を含む。</u> 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 2-3-3標準歩掛等の補正は適用しない。</p> <p>~~~~~ ~~~~~ ~~~~~</p>	施工単価コード		DXC14001						(予備設計あり)		(1業務当り)						区分	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員		概 算 工 事 費			1.0	2.0	2.0	2.0	<p>概算工事費算出の歩掛は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">施工単価コード</td> <td colspan="6">DXC14001</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(予備設計あり)</td> <td colspan="6">(1業務当り)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">区分</td> <td>職 種</td> <td colspan="6">直 接 人 件 費</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主任 技術者</td> <td>技師長</td> <td>主任 技師</td> <td>技師 (A)</td> <td>技師 (B)</td> <td>技師 (C)</td> <td>技術員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>概 算 工 事 費</td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、<u>~~~~~見積徴取作業を含む。</u> 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 2-3-3標準歩掛等の補正は適用しない。 4. <u>「国土交通省土木工事標準積算基準書」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。</u> 5. <u>作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。</u> 6. <u>「見積書・単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする(成果品としない)。</u></p>	施工単価コード		DXC14001						(予備設計あり)		(1業務当り)						区分	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員		概 算 工 事 費			1.0	2.0	2.0	2.0	注釈の訂正
施工単価コード		DXC14001																																																																																		
(予備設計あり)		(1業務当り)																																																																																		
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																		
		主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員																																																																												
	概 算 工 事 費			1.0	2.0	2.0	2.0																																																																													
施工単価コード		DXC14001																																																																																		
(予備設計あり)		(1業務当り)																																																																																		
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																		
		主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員																																																																												
	概 算 工 事 費			1.0	2.0	2.0	2.0																																																																													
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 7. 一般構造物 設計	設標準 - 30(1)	<p>7-1-5 概算工事費</p> <p>(1) 適用範囲 門型ラーメン、現場打・プレキャスト函渠、及び開削共同溝詳細設計における概算工事費算出に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛 7-1-5-1 概算工事費</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">施工単価コード</td> <td colspan="6">DXC13000</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="6">(1業務当り)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">区分</td> <td>職 種</td> <td colspan="6">直 接 人 件 費</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主任 技術者</td> <td>技師長</td> <td>主任 技師</td> <td>技師 (A)</td> <td>技師 (B)</td> <td>技師 (C)</td> <td>技術員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>概 算 工 事 費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、<u>実施時点での見積徴取作業を含む。</u> 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。</p> <p>~~~~~ ~~~~~ ~~~~~</p>	施工単価コード		DXC13000								(1業務当り)						区分	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員		概 算 工 事 費				2.0	2.0	2.0	<p>7-1-5 概算工事費</p> <p>(1) 適用範囲 門型ラーメン、現場打・プレキャスト函渠、及び開削共同溝詳細設計における概算工事費算出に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛 7-1-5-1 概算工事費</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">施工単価コード</td> <td colspan="6">DXC13000</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="6">(1業務当り)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">区分</td> <td>職 種</td> <td colspan="6">直 接 人 件 費</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主任 技術者</td> <td>技師長</td> <td>主任 技師</td> <td>技師 (A)</td> <td>技師 (B)</td> <td>技師 (C)</td> <td>技術員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>概 算 工 事 費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、<u>~~~~~見積徴取作業を含む。</u> 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。 4. <u>「国土交通省土木工事標準積算基準書」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。</u> 5. <u>作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。</u> 6. <u>「見積書・単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする(成果品としない)。</u></p>	施工単価コード		DXC13000								(1 業務 当り)						区分	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員		概 算 工 事 費				2.0	2.0	2.0	単位の訂正 注釈の訂正
施工単価コード		DXC13000																																																																																		
		(1業務当り)																																																																																		
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																		
		主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員																																																																												
	概 算 工 事 費				2.0	2.0	2.0																																																																													
施工単価コード		DXC13000																																																																																		
		(1 業務 当り)																																																																																		
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																																		
		主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 (A)	技師 (B)	技師 (C)	技術員																																																																												
	概 算 工 事 費				2.0	2.0	2.0																																																																													

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																						
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 7. 一般構造物 設計	設標準 -30(1)	<p>7-2 擁壁・補強土 7-2-1 概算工事費 (1) 適用範囲 逆T式、重力式、モタレ式、井桁式、大型ブロック積、補強土(テールアルメ、多数アンカー式擁壁等)、U型、プレキャストL型、及び山留め式擁壁詳細設計における概算工事費算出に適用する。 (2) 標準歩掛 7-2-1-1 概算工事費</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC13100</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(1業務当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、<u>実施時点での見積徴取作業を含む。</u> 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。</p> <p>~~~~~ ~~~~~ ~~~~~</p>	施工単価コード	DXC13100	区分	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	概算工事費						1.5	1.5		<p>7-2 擁壁・補強土 7-2-1 概算工事費 (1) 適用範囲 逆T式、重力式、モタレ式、井桁式、大型ブロック積、補強土(テールアルメ、多数アンカー式擁壁等)、U型、プレキャストL型、及び山留め式擁壁詳細設計における概算工事費算出に適用する。 (2) 標準歩掛 7-2-1-1 概算工事費</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC13100</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(1箇所当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、<u>~~~~~見積徴取作業を含む。</u> 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。</p> <p style="color: red;">4. <u>「国土交通省土木工事標準積算基準書」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。</u> 5. <u>作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。</u> 6. <u>「見積書・単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする(成果品としない)。</u></p>	施工単価コード	DXC13100	区分	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	概算工事費						1.5	1.5		単位の訂正 注釈の訂正
施工単価コード	DXC13100																																																									
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																								
		主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																																																		
概算工事費						1.5	1.5																																																			
施工単価コード	DXC13100																																																									
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																								
		主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																																																		
概算工事費						1.5	1.5																																																			
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 7. 一般構造物 設計	設標準 -30(2)	<p>7-3 法面工 7-3-1 概算工事費 (1) 適用範囲 場所打ち法枠及びアンカー付き場所打ち法枠詳細設計における概算工事費算出に適用する。 (2) 標準歩掛 7-3-1-1 概算工事費</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC13200</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(1業務当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、<u>実施時点での見積徴取作業を含む。</u> 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。</p> <p>~~~~~ ~~~~~ ~~~~~</p>	施工単価コード	DXC13200	区分	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	概算工事費						1.0	2.0	2.0	<p>7-3 法面工 7-3-1 概算工事費 (1) 適用範囲 場所打ち法枠及びアンカー付き場所打ち法枠詳細設計における概算工事費算出に適用する。 (2) 標準歩掛 7-3-1-1 概算工事費</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC13200</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(1箇所当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>概算工事費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、<u>~~~~~見積徴取作業を含む。</u> 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。</p> <p style="color: red;">4. <u>「国土交通省土木工事標準積算基準書」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。</u> 5. <u>作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。</u> 6. <u>「見積書・単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする(成果品としない)。</u></p>	施工単価コード	DXC13200	区分	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	概算工事費						1.0	2.0	2.0	単位の訂正 注釈の訂正
施工単価コード	DXC13200																																																									
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																								
		主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																																																		
概算工事費						1.0	2.0	2.0																																																		
施工単価コード	DXC13200																																																									
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																								
		主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																																																		
概算工事費						1.0	2.0	2.0																																																		

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																														
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 8. 橋梁設計	設標準 - 47 - 48	<p>8. 橋梁設計</p> <p>8-2 橋梁詳細設計</p> <p>8-2-1 概算工事費</p> <p>(1) 適用範囲 橋梁詳細設計(橋梁撤去、土留工、及び仮橋・仮橋詳細設計を含む)における概算工事費算出に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛 7-1-5-1 概算工事費</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC13500</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">(1業務当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="6">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>概 算 工 事 費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>5.0</td> <td>7.0</td> <td>6.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴取作業を含む。 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。</p> <p>8-3 横断歩道橋詳細設計 横断歩道橋詳細設計における作業区分は以下のとおりとする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td> 1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の項目について記載した業務計画書を作成する。 ① 業務概要、②実施方針、③業務工程、④業務組織計画、⑤打合せ計画、⑥成果品の品質を確保するための計画、⑦成果品の内容、部数、⑧使用する主な図書及び基準、⑨連絡体制(緊急時含む)、⑩使用する主な機器、⑪照査計画、⑫その他 2) 設計条件の確認 設計図書に示された道路の幾何構造、荷重条件等設計施工上の基本条件を確認し、当該設計用に整理する。 3) 設計細部事項の検討 使用材料、地盤定数、支承条件、構造細目、付属物の形式など詳細設計に当たり必要な細部条件について技術的検討を加えたうえで、これを当該設計用に整理するとともに適用基準との整合を図り確認を行う。 4) 関係機関との協議資料作成 業務の過程で、業務成果品に該当するものに若干の手を加える程度の関係機関との協議用資料を作成する。 </td> </tr> <tr> <td>設計計算</td> <td>詳細設計計算に当たり、予備設計等で決定された主要構造寸法に基づき、現地への搬入条件及び架設条件を考慮し、上部工については、橋体、床版、支承、高欄、伸縮装置、橋面排水装置等、下部工については、梁、柱、フーチング、躯体等について詳細設計を行う。</td> </tr> </tbody> </table>	施工単価コード	DXC13500	区分	職 種	直 接 人 件 費						主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	概 算 工 事 費					1.5	5.0	7.0	6.0	作業区分	作 業 の 範 囲	設計計画	1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の項目について記載した業務計画書を作成する。 ① 業務概要、②実施方針、③業務工程、④業務組織計画、⑤打合せ計画、⑥成果品の品質を確保するための計画、⑦成果品の内容、部数、⑧使用する主な図書及び基準、⑨連絡体制(緊急時含む)、⑩使用する主な機器、⑪照査計画、⑫その他 2) 設計条件の確認 設計図書に示された道路の幾何構造、荷重条件等設計施工上の基本条件を確認し、当該設計用に整理する。 3) 設計細部事項の検討 使用材料、地盤定数、支承条件、構造細目、付属物の形式など詳細設計に当たり必要な細部条件について技術的検討を加えたうえで、これを当該設計用に整理するとともに適用基準との整合を図り確認を行う。 4) 関係機関との協議資料作成 業務の過程で、業務成果品に該当するものに若干の手を加える程度の関係機関との協議用資料を作成する。	設計計算	詳細設計計算に当たり、予備設計等で決定された主要構造寸法に基づき、現地への搬入条件及び架設条件を考慮し、上部工については、橋体、床版、支承、高欄、伸縮装置、橋面排水装置等、下部工については、梁、柱、フーチング、躯体等について詳細設計を行う。	<p>8. 橋梁設計</p> <p>8-2 橋梁詳細設計</p> <p>8-2-1 概算工事費</p> <p>(1) 適用範囲 橋梁詳細設計(橋梁撤去、土留工、及び仮橋・仮橋詳細設計を含む)における概算工事費算出に適用する。ただし、複数の橋種を有する場合、橋長30.0m以上の長大橋の場合、特殊な架設工法(スリット・プレキャスト工法、II:送り出し工法、トラス・ケーブル工法、移動式支保工架設工法等)の場合は、適用しない。</p> <p>(2) 標準歩掛 7-1-5-1 概算工事費</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC13500</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">(1橋当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="6">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>概 算 工 事 費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.5</td> <td>5.0</td> <td>7.0</td> <td>6.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、見積徴取作業を含む。 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。 4. 「国土交通省土木事業標準積算基準」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。 5. 作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。 6. 「見積書・単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする。(成果品としない)。</p> <p>8-3 横断歩道橋詳細設計 横断歩道橋詳細設計における作業区分は以下のとおりとする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>作業区分</th> <th>作 業 の 範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計計画</td> <td> 1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の項目について記載した業務計画書を作成する。 ① 業務概要、②実施方針、③業務工程、④業務組織計画、⑤打合せ計画、⑥成果品の品質を確保するための計画、⑦成果品の内容、部数、⑧使用する主な図書及び基準、⑨連絡体制(緊急時含む)、⑩使用する主な機器、⑪照査計画、⑫その他 2) 設計条件の確認 設計図書に示された道路の幾何構造、荷重条件等設計施工上の基本条件を確認し、当該設計用に整理する。 3) 設計細部事項の検討 使用材料、地盤定数、支承条件、構造細目、付属物の形式など詳細設計に当たり必要な細部条件について技術的検討を加えたうえで、これを当該設計用に整理するとともに適用基準との整合を図り確認を行う。 4) 関係機関との協議資料作成 業務の過程で、業務成果品に該当するものに若干の手を加える程度の関係機関との協議用資料を作成する。 </td> </tr> </tbody> </table>	施工単価コード	DXC13500	区分	職 種	直 接 人 件 費						主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	概 算 工 事 費					1.5	5.0	7.0	6.0	作業区分	作 業 の 範 囲	設計計画	1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の項目について記載した業務計画書を作成する。 ① 業務概要、②実施方針、③業務工程、④業務組織計画、⑤打合せ計画、⑥成果品の品質を確保するための計画、⑦成果品の内容、部数、⑧使用する主な図書及び基準、⑨連絡体制(緊急時含む)、⑩使用する主な機器、⑪照査計画、⑫その他 2) 設計条件の確認 設計図書に示された道路の幾何構造、荷重条件等設計施工上の基本条件を確認し、当該設計用に整理する。 3) 設計細部事項の検討 使用材料、地盤定数、支承条件、構造細目、付属物の形式など詳細設計に当たり必要な細部条件について技術的検討を加えたうえで、これを当該設計用に整理するとともに適用基準との整合を図り確認を行う。 4) 関係機関との協議資料作成 業務の過程で、業務成果品に該当するものに若干の手を加える程度の関係機関との協議用資料を作成する。	<p>適用範囲の訂正</p> <p>単位の訂正</p> <p>注釈の訂正</p> <p>記載の追加に伴う作業区分表の改訂</p>
施工単価コード	DXC13500																																																																	
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																
		主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																																																										
概 算 工 事 費					1.5	5.0	7.0	6.0																																																										
作業区分	作 業 の 範 囲																																																																	
設計計画	1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の項目について記載した業務計画書を作成する。 ① 業務概要、②実施方針、③業務工程、④業務組織計画、⑤打合せ計画、⑥成果品の品質を確保するための計画、⑦成果品の内容、部数、⑧使用する主な図書及び基準、⑨連絡体制(緊急時含む)、⑩使用する主な機器、⑪照査計画、⑫その他 2) 設計条件の確認 設計図書に示された道路の幾何構造、荷重条件等設計施工上の基本条件を確認し、当該設計用に整理する。 3) 設計細部事項の検討 使用材料、地盤定数、支承条件、構造細目、付属物の形式など詳細設計に当たり必要な細部条件について技術的検討を加えたうえで、これを当該設計用に整理するとともに適用基準との整合を図り確認を行う。 4) 関係機関との協議資料作成 業務の過程で、業務成果品に該当するものに若干の手を加える程度の関係機関との協議用資料を作成する。																																																																	
設計計算	詳細設計計算に当たり、予備設計等で決定された主要構造寸法に基づき、現地への搬入条件及び架設条件を考慮し、上部工については、橋体、床版、支承、高欄、伸縮装置、橋面排水装置等、下部工については、梁、柱、フーチング、躯体等について詳細設計を行う。																																																																	
施工単価コード	DXC13500																																																																	
区分	職 種	直 接 人 件 費																																																																
		主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																																																										
概 算 工 事 費					1.5	5.0	7.0	6.0																																																										
作業区分	作 業 の 範 囲																																																																	
設計計画	1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の項目について記載した業務計画書を作成する。 ① 業務概要、②実施方針、③業務工程、④業務組織計画、⑤打合せ計画、⑥成果品の品質を確保するための計画、⑦成果品の内容、部数、⑧使用する主な図書及び基準、⑨連絡体制(緊急時含む)、⑩使用する主な機器、⑪照査計画、⑫その他 2) 設計条件の確認 設計図書に示された道路の幾何構造、荷重条件等設計施工上の基本条件を確認し、当該設計用に整理する。 3) 設計細部事項の検討 使用材料、地盤定数、支承条件、構造細目、付属物の形式など詳細設計に当たり必要な細部条件について技術的検討を加えたうえで、これを当該設計用に整理するとともに適用基準との整合を図り確認を行う。 4) 関係機関との協議資料作成 業務の過程で、業務成果品に該当するものに若干の手を加える程度の関係機関との協議用資料を作成する。																																																																	

次ページ(設標準-48)に移動

土木事業委託積算基準 の 改定・追加・訂正

適用年月日
(令和7年(2025年)4月1日以降積算基準日適用)

区分	ページ	現 行	改 定	備 考																																																		
設計編 〔2〕 土木設計業務 等標準歩掛 14. 河川構造物 設計	設標準 -154(1)	<p>14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出</p> <p>(1) 適用範囲 護岸詳細設計、樋門詳細設計、自動開閉樋門詳細設計、排水工実施設計及び詳細設計、砂防堰堤詳細設計、並びに急傾斜地崩壊防止施設詳細設計における概算工事費算出に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛 14-10-1 概算工事費</p> <table border="1" data-bbox="1079 610 1473 667"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC48500</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">(1業務当り)</p> <table border="1" data-bbox="574 671 1473 798"> <thead> <tr> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区 分 概 算 工 事 費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.1</td> <td>2.8</td> <td>8.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴取作業を含む。</p> <p>~~~~~</p> <p>2. 各詳細設計における標準歩掛の補正は適用しない。</p> <p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p>	施工単価コード	DXC48500	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	区 分 概 算 工 事 費				1.1	2.8	8.0		<p>14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出</p> <p>(1) 適用範囲 護岸詳細設計、樋門詳細設計、自動開閉樋門詳細設計、排水工実施設計及び詳細設計、砂防堰堤詳細設計、並びに急傾斜地崩壊防止施設詳細設計における概算工事費算出に適用する。</p> <p>(2) 標準歩掛 14-10-1 概算工事費</p> <table border="1" data-bbox="2079 610 2473 667"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>DXC48500</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">(1業務当り)</p> <table border="1" data-bbox="1573 671 2473 798"> <thead> <tr> <th rowspan="2">職 種</th> <th colspan="7">直 接 人 件 費</th> </tr> <tr> <th>主任 技術者</th> <th>技師長</th> <th>主任 技 師</th> <th>技 師 (A)</th> <th>技 師 (B)</th> <th>技 師 (C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区 分 概 算 工 事 費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.1</td> <td>2.8</td> <td>8.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 見積必要品目がある場合は、実施時点での見積徴取作業を含む。</p> <p>2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。</p> <p>3. 各詳細設計における標準歩掛の補正は適用しない。</p> <p>4. 「国土交通省土木工事標準積算基準」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。</p> <p>5. 作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。</p> <p>6. 「見積書：単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする。(成果品としない)。</p>	施工単価コード	DXC48500	職 種	直 接 人 件 費							主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員	区 分 概 算 工 事 費				1.1	2.8	8.0		注釈の訂正
施工単価コード	DXC48500																																																					
職 種	直 接 人 件 費																																																					
	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																																															
区 分 概 算 工 事 費				1.1	2.8	8.0																																																
施工単価コード	DXC48500																																																					
職 種	直 接 人 件 費																																																					
	主任 技術者	技師長	主任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員																																															
区 分 概 算 工 事 費				1.1	2.8	8.0																																																

7. 物理検層

7-1 適用

ボーリング孔を利用して孔壁周辺の地層の物理的性質を調べる各原位置試験に適用する。なお、ボーリングと同一業務で行わない場合は、計画準備費・報告書作成費を別途計上すること。

7-2 測定

7-2-1 測定 (物理検層)

施工単価コード	DXB49010~DXB49080
---------	-------------------

(1式(100m)当り)

区分	名称	単位	速度(P)検層 ウェルシューティング		音波(P)	P S 検層			摘要
			1m間隔	2m間隔		1m間隔(連続)	ダウンホール		
					1m間隔		2m間隔	1m間隔	
直接 人件費	地質調査技師	人	3.0	2.0	3.0	6.0	3.0	4.0	2人作業
	主任地質調査員	〃	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	1人作業
	地質調査員	〃	4.5	3.0	4.5	9.0	4.5	6.0	3人作業
材料費	ダイナマイト	本	(40)	(20)	—	(40)	(20)	—	3号桐(100g)
	電気雷管	個	(30)	(15)	—	(30)	(15)	—	6号瞬発
	損耗費	式	1	1	1	1	1	1	別表による
	消耗品費	式	1	1	1	1	1	1	上記材料費計*10%
動力費	軽油・油脂	式	1	1	1	1	1	1	材料費*1%
機械等 損料	検層器損料	日	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	ダウンホール1m間隔の 直接人件費*1.8%
	ボーリングマシン	日	1.5	1.0	1.5	3.0	1.5	2.0	ダウンホール1m間隔の 直接人件費*2.5%

区分	名称	単位	密度	電気	温度	キャリパー	摘要
			連続	連続	連続	連続	
直接 人件費	地質調査技師	人	2.0	2.0	2.0	2.0	2人作業
	主任地質調査員	〃	1.0	1.0	1.0	1.0	1人作業
	地質調査員	〃	2.0	2.0	2.0	2.0	2人作業
材料費	損耗費	式	1	1	1	1	別表による
	消耗品費	式	1	1	1	1	上記材料費計*5%
動力費	軽油・油脂	式	1	1	1	1	材料費*1%
安全費	注13.による	式	1	—	—	—	直接人件費*5%
機械等 損料	検層器損料	日	1.0	1.0	1.0	1.0	直接人件費*6.6%
	ボーリングマシン	日	1.0	1.0	1.0	1.0	直接人件費*8.4%

損耗費はケーブル及びゾンデ合わせて1回使用当たりの費用とし、下表の値を直接人件費に乘じる。

速度(P)	音波(P)	P S 検層 ダウンホール	P S 検層 孔内起振受振	密度	電気	温度	キャリパー	摘要
1m間隔の 7%	1m間隔の 17%	1m間隔の 7%	40%	35%	11%	11%	19%	ケーブル及びゾンデは 30回使用で全損

注) 1. 7-5により歩掛補正を行う。ただし、材料費について、測定深度100m未満の場合は、実測定長に応じ比例按分のこと。

2. 各検層の測定間隔は、表に示す値を基本としている。表以外の測定間隔の場合は別途考慮すること。

3. 速度検層、P S 検層におけるダイナマイト及び電気雷管は必要に応じて計上すること。
4. 消耗品費には、記録紙や電源（電池等）、油脂、ビニルテープ等を含む。
5. 当該歩掛は、最大深さ300m程度までの調査を標準としているため、これを超える深度の調査の場合は、別途考慮すること。なお、P S 検層（ダウンホール方式）の測定は、現場状況と地質状況にもよるが深さ100m程度が限界なので注意のこと。
6. 当該歩掛には、検層機器の昇降に必要なボーリングマシンやボーリングオペレーターを含む。なお、削孔費は別途計上のこと。
7. 速度検層において起振孔を必要とする場合は、別途φ76mm以上のボーリング費（φ73mm以上のケーシング全損）を計上のこと。
8. 崩壊性地質などで、塩ビパイプにより孔壁の保護を要する場合は、別途材料費及び挿入費を計上のこと。
9. ボーリングのケーシングプログラムなどにより測定作業が分割される場合は、複数孔による場合と考えて積算すること。また、現地状況により動復員（往復）に日数を要する場合は、別途歩掛を調整・計上すること。
10. ダウンホール方式によるP S 検層を実施する際に、地震基盤として設定された速度を確認して、ボーリングの掘止めを行う場合、増掘する場合の測定費は、その都度別孔扱いとして個別に補正係数を乗じて積算すること。
11. 密度検層における安全費とは、線源が半減期を迎える5年に一度ゾンデの部品交換を行う費用、線源の仕様届及び保管に係る費用である。
12. 測定深とは、測定区間長ではなく、測定する最下端の深さを指す。従って、60mから100m間を測定する場合は、測定深100mとなる。
13. ダウンホール方式によるP・S 検層の測定間隔は、土質地盤では1m間隔、岩盤では2m間隔が標準である。同一孔で深度0～50mの50m区間が土質地盤、50～80mの30m区間が岩盤の場合の直接人件費の積算例は以下となる。

$$(\text{ダウンホール方式1mの直接人件費} \times 0.69 (\text{深度50mの補正係数}) + \text{ダウンホール方式2mの直接人件費} \times 0.56 (\text{深度30mの補正係数})) \times 0.88 (\text{深度80mの補正係数})$$
14. ダウンホール方式によるP S 検層において、岩盤区間中の挟み層や破碎帯の検出など、地質状況の変化が大きく高い精度を要求される場合は、岩盤でも1m間隔とすることがある。

7-3 データ整理・計算

7-3-1 データ整理・計算（物理検層）

施工単価コード	DXB49210~DXB49280
（1式（100m）当り）	

区分	名称	単位	速度(P)検層 ウェルシュティンク		音波(P) 1m間隔(連続)	P S 検層 ダウンホール		摘要
			1m間隔	2m間隔		1m間隔	2m間隔	
直接人件費	地質調査技師	人	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	
	主任地質調査員	人	2.0	1.0	2.0	4.0	2.0	
消耗品費		式	1	1	1	1	1	直接人件費*5%

区分	名称	単位	P・S 検層 孔内起振受振	密度	電気	温度	キャリパー	摘要
			1m間隔	連続	連続	連続	連続	
直接人件費	地質調査技師	人	1.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
	主任地質調査員	人	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
消耗品費		式	1	1	1	1	1	直接人件費*5%

- 注) 1. 各検層の測定間隔は、表に示す値を基本としている。表以外の測定間隔の場合は別途考慮すること。
 2. 7-5により歩掛補正を行う。

7-4 解析

7-4-1 解析 (物理検層)

施工単価コード	DXB49410~DXB49440
(1式(100m)当り)	

区分	名称	単位	速度(P)検層		音波(P)	P・S検層			摘要
			1m間隔	2m間隔		P・S検層		孔内起振受振	
					1m間隔	2m間隔	ダウンホール		
直接人件費	主任技師	人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
	技師(A)	〃	3.0	1.5	3.0	4.0	2.0	4.0	
	技師(C)	〃	2.5	2.0	5.0	6.0	5.0	6.0	
	技術員	〃	3.0	2.0	5.0	8.0	5.0	8.0	
材料費	雑品	式	1	1	1	1	1	1	直接人件費*1%

- 注) 1. 各検層の測定間隔は、表に示す値を基本としている。表以外の測定間隔の場合は別途考慮すること。
 2. 7-5により歩掛補正を行う。
 3. 密度、電気、温度、キャリパー検層は、データ整理・計算に解析費用を含む。
 3. ダウンホール方式によるP・S検層を実施する際に、地震基盤として設定された速度を確認してボーリングの掘止めを行う場合、現地で解析した区間は別孔の解析費として計上すること。
 4. 当該作業は、解析等調査業務費として計上すること。

7-5 深度補正

測定、データ整理・計算、解析について、測定深に応じて次の補正係数を各人件費、材料費、機械経等損料に乗じる。なお、複数の孔がある場合は、孔毎にそれぞれの測定深に応じた補正係数を用いること。

(1) 測定深が20m以下の場合

補正係数 = 0.5

(2) 測定深が20m超100m以下の場合

補正係数 = $0.00625 \times \text{測定深} + 0.375$

(測定深は整数とし、補正係数は小数第3位四捨五入して小数第2位とする)

(3) 測定深が100m超500m以下の場合

補正係数 = $(1.8 - 0.4 \log(\text{測定深})) \times \text{測定深} \div 100$

(測定深は整数とし、補正係数は小数第3位四捨五入して小数第2位とする。対数(log)の底は10)

(4) 測定深が500m超の場合

補正係数 = 3.6

7-6 その他

電子成果品作成費は、「設計業務等標準積算基準書 第2編 第2章 地質調査標準歩掛等 2-8-1 電子成果品作成費」により計上する。

概算工事費算出の歩掛は次のとおりとする。

施工単価コード	DXC14001
---------	----------

(予備設計あり)

(1業務当り)

区分	職 種	直 接 人 件 費						
		主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費					1.0	2.0	2.0	2.0

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、見積徴取作業を含む。
 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。
 3. 2-3-3標準歩掛等の補正は適用しない。
 4. 「国土交通省土木工事標準積算基準書」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。
 5. 作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。
 6. 「見積書・単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする(成果品としない)。

2-5 その他

2-5-1 道路照明施設設計

2-5-1-1 道路照明施設詳細設計

施工単価コード	DXC14100~DXC14105
---------	-------------------

(1km当り)

区分	作業区分	職種 単位	直接人件費：n				
			主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
(1)	現 地 踏 査	k m			1.0	0.4	2.0
(2)	設 計 計 画			0.5			
	設 計 条 件 の 確 認 道 路 照 明 施 設 設 計						2.5
	設 計 図					2.0	5.0
	数 量 計 算				1.2	3.4	
	照 査			1.1	0.9	0.5	

- 注) 1. 区分(1)と(2)には、それぞれ下記の通り歩掛補正を行う。
 (1) $0.60 + 0.40 / \text{設計延長}$
 (2) $0.74 + 0.26 / \text{設計延長} \times C$ (※Cの値 一般柱：1.0 個別制作柱：1.3)
 2. 本歩掛は、5km未満の連続照明に適用する。
 3. 予備設計が必要な場合には、別途積み上げること。
 4. 高圧受電部等の業務は考慮していないので、別途積み上げること。
 5. 連続照明区間に交差点D照明灯の局部照明を含む場合は、局部照明部分は別途積み上げること。
 6. 関連機関との協議資料の作成及び報告書作成は、区分(2)の各作業区分の歩掛に含む。

7-1-5 概算工事費

(1) 適用範囲

門型ラーメン、現場打・プレキャスト函渠、及び開削共同溝詳細設計における概算工事費算出に適用する。

(2) 標準歩掛

7-1-5-1 概算工事費

施工単価コード	DXC13000
---------	----------

(1箇所当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費					2.0	2.0	2.0

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、見積徴取作業を含む。
 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。
 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。
 4. 「国土交通省土木工事標準積算基準書」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。
 5. 作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。
 6. 「見積書・単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする(成果品としない)。

7-2 擁壁・補強土

7-2-1 概算工事費

(1) 適用範囲

逆T式、重力式、モタレ式、井桁式、大型ブロック積、補強土(テールアルメ、多数アンカー式擁壁等)、U型、プレキャストL型、及び山留め式擁壁詳細設計における概算工事費算出に適用する。

(2) 標準歩掛

7-2-1-1 概算工事費

施工単価コード	DXC13100
---------	----------

(1箇所当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費					1.5	1.5	

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、見積徴取作業を含む。
 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。
 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。
 4. 「国土交通省土木工事標準積算基準書」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。
 5. 作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。
 6. 「見積書・単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする(成果品としない)。

7-3 法面工

7-3-1 概算工事費

(1) 適用範囲

場所打ち法枠及びアンカー付き場所打ち法枠詳細設計における概算工事費算出に適用する。

(2) 標準歩掛

7-3-1-1 概算工事費

施工単価コード	DXC13200
---------	----------

(1箇所当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費					1.0	2.0	2.0

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、見積徴取作業を含む。
 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。
 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。
 4. 「国土交通省土木工事標準積算基準書」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。
 5. 作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。
 6. 「見積書・単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする(成果品としない)。

8. 橋梁設計

8-2 橋梁詳細設計

8-2-1 概算工事費

(1) 適用範囲

橋梁詳細設計（橋梁撤去、土留工、及び仮橋・仮栈橋詳細設計を含む）における概算工事費算出に適用する。ただし、複数の橋種を有する場合、橋長300m以上の長大橋の場合、特殊な架設工法（Ⅰ：ケーブルエレクション工法、Ⅱ：送り出し工法・トラベラークレーン工法・移動式支保工架設工法等）の場合は、適用しない。

(2) 標準歩掛

7-1-5-1 概算工事費

施工単価コード	DXC13500
---------	----------

（1橋当り）

区 分	職 種	直 接 人 件 費						
		主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費					1.5	5.0	7.0	6.0

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、見積徴取作業を含む。
 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。
 3. 標準歩掛等の補正は適用しない。
 4. 「国土交通省土木工事標準積算基準書」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。
 5. 作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。
 6. 「見積書・単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする（成果品としない）。

8-3 横断歩道橋詳細設計

横断歩道橋詳細設計における作業区分は以下のとおりとする。

作業区分	作 業 の 範 囲
設計計画	1) 設計計画 業務目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、以下の項目について記載した業務計画書を作成する。 ① 業務概要、②実施方針、③業務工程、④業務組織計画、⑤打合せ計画、⑥成果品の品質を確保するための計画、⑦成果品の内容、部数、⑧使用する主な図書及び基準、⑨連絡体制（緊急時含む）、⑩使用する主な機器、⑪照査計画、⑫その他 2) 設計条件の確認 設計図書に示された道路の幾何構造、荷重条件等設計施工上の基本条件を確認し、当該設計用に整理する。 3) 設計細部事項の検討 使用材料、地盤定数、支承条件、構造細目、付属物の形式など詳細設計に当たり必要な細部条件について技術的検討を加えたうえで、これを当該設計用に整理するとともに適用基準との整合を図り確認を行う。 4) 関係機関との協議資料作成 業務の過程で、業務成果品に該当するものに若干の手を加える程度の関係機関との協議用資料を作成する。

作業区分	作 業 の 範 囲
設計計算	詳細設計計算に当たり、予備設計等で決定された主要構造寸法に基づき、現地への搬入条件及び架設条件を考慮し、上部工については、橋体、床版、支承、高欄、伸縮装置、橋面排水装置等、下部工については、梁、柱、フーチング、躯体等について詳細設計を行う。
設計図	位置図、一般図、線形図、構造一般図、構造詳細図、配筋図、支承、高欄、伸縮装置、排水装置等の詳細設計図の作成を行う。(一般図及び構造一般図については、既設構造物及び計画構造物等との位置関係がわかる寸法を記入する。)
数量計算	数量計算は「土木工事数量算出要領」により行うものとし、算出した結果は工種別、区間別にとりまとめる。
座標計算	発注者から貸与された道路線形計算書、平面図及び縦断線形図等に基づき、当該構造物の必要箇所(橋台、橋座、支承面、下部工、基礎工等)について、線形計算を行い、平面座標及び縦断計画高を求める。
施工計画	構造物の規模、道路、鉄道、河川の渡河条件及び計画工程表、施工順序、施工方法、資材・部材の搬入計画、架設備計画等、工事費積算にあたって必要な計画を記載した施工計画書の作成を行う。なお、施工計画書には設計と不可分な施工上の留意点についてとりまとめを行い記載する。
照査	下記に示す事項を標準として照査を行う。 ① 基本条件の決定に際し、現地の状況の他、基礎情報を収集、把握しているかの確認を行い、その内容が適切であるかについて照査を行う。特に地形、地質条件については、設計の目的に対応した情報が得られているかの確認を行う。 ② 一般図を基に柱位置、径間割り、建築限界、支承条件及び地盤条件と橋梁形式の整合が適切に取れているかの確認を行う。また、埋設物、支障物件、周辺施設との近接等、施工条件が設計計画に反映されているかの確認を行う。 ③ 設計方針及び設計手法が適切であるかの照査を行う。また、架設工法と施工方法の確認を行い、施工時応力についても照査を行う。 ④ 設計計算、設計図、数量の正確性、適切性及び整合性に着目し照査を行う。最小鉄筋量等構造細目についても照査を行い、基準との整合を図る。特に、上部工、下部工及び付属物それぞれの取り扱いについて整合性の照査を行う。
報告書作成	業務の成果として、設計計算書、設計図面、数量計算書、施工計画書等を作成する。なお、以下の項目について解説し、取りまとめて記載した設計概要書を作成する。 ①設計条件②橋梁形式の決定経緯及び選定理由(構造特性、施工性、経済性、維持管理、環境の要件の解説) ③上部工の解析手法 ④構造各部の検討内容及び問題点 ⑤特に考慮した事項 ⑥道路・鉄道・河川の交差条件 ⑦コントロールポイント ⑧主桁主要断面寸法 ⑨下部工躯体及び基礎寸法等設計計算の主要結果 ⑩主要材料、工事数量の総括 ⑪施工段階での注意事項、検討事項
現地踏査	架橋地点の現地踏査を行い、設計図書に基づいた設計範囲及び貸与資料と現地との整合性を目視により確認する。また、地形・地質等の自然状況、沿道・交差・用地条件等の周辺状況を把握し、合わせて工事用道路・施工ヤード等の施工性の判断に必要な現地状況の把握を行う。
橋梁付属物等の設計	設計図書に基づき、道路標識、照明、添架物、遮音壁等の橋梁付属物の設計を行う。

14-10 河川・砂防構造物詳細設計概算工事費算出

(1) 適用範囲

護岸詳細設計、樋門詳細設計、自動開閉樋門詳細設計、排水工実施設計及び詳細設計、砂防堰堤詳細設計、並びに急傾斜地崩壊防止施設詳細設計における概算工事費算出に適用する。

(2) 標準歩掛

14-10-1 概算工事費

施工単価コード	DXC48500
---------	----------

(1 業務当り)

職 種 区 分	直 接 人 件 費						
	主 任 技術者	技師長	主 任 技 師	技 師 (A)	技 師 (B)	技 師 (C)	技術員
概 算 工 事 費				1.1	2.8	8.0	

- (注) 1. 見積必要品目がある場合は、見積徴取作業を含む。
 2. 電子計算機使用料は、直接経費として直接人件費の2%を計上する。
 3. 各詳細設計における標準歩掛の補正は適用しない。
 4. 「国土交通省土木工事標準積算基準書」の積算体系に対応した市販のソフトの使用を原則とする。
 5. 作成された資料は「工事予算把握のための基礎資料」として扱うものとする。
 6. 「見積書・単価策定書」は参考資料として取り扱うものとする(成果品としない)。